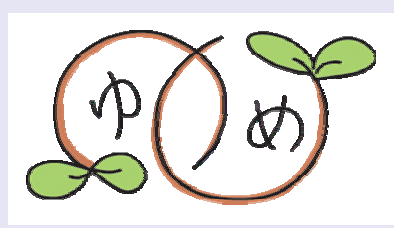


第5号
2006.12.1.Fri

地域づくり考房『ゆめ』

ゆめ通信



地域づくり考房『ゆめ』は、大学で学んだ知識や技術を学生が地域づくりの中で実践的に生かしていくことを目指しています。

“ゆめ”の由来…結芽ゆめ「二つの芽を結ぶ場所」+ 夢ゆめ + 遊眼ゆめ「遊び心の視点を持つ眼」



松本大学

第40回梓乃森祭



木目細工づくり

考房『ゆめ』ひろば

ペロタクシー

信州の食文化

第40回梓乃森祭「平和講演会」概要

松本大学学長 中野和朗

小学校6年生の夏、私は終戦を迎えました。外国へ軍隊を侵攻させた正真正銘の“侵略戦争”なのにこれを“聖戦”と吹き込まれ、これを勝ち抜くために一人でも多く敵を殺し、お国のために自分の命を投げ出すことが“愛国心”だと徹底的に叩き込まれました。その結果、私は誰にも負けない“愛国小国民”に育てられました。小学校を卒業したら直ぐ「少年航空兵」になって、「神風特攻隊」を志願し一刻も早くお国のために一人でも多くの敵を殺し、自分の命を棄てようと決意していたのです。戦争というのは、人間同士で殺し合うことです。“殺人”は人間としてやってはならないことだということは誰にも分かっていることです。ですから、人間は戦争はやってはいけないことなのです。ところが、軍国主義時代の“愛国心”教育は、“殺せ！そして死ね！”ということを徹底的に教えたのです。これは人間であることを止めよ！と教えていることと同じです。これが、かつての“愛国心教育”の実体です。本当に恐ろしい教育でした。二度と再びこのような“愛国心”教育が復活してはならないのです。そのための大きな保障が「第九条」なのです。戦争を止めたヒトのことを“ホモサピエンス”と云うならば、この「九条」によって日本人は地球上で初めての“ホモサピエンス”になったといえます。「九条」は“ホモサピエンス宣言”であり、これを世界中に広め、世界中の人間を“ホモサピエンス”に変えることです。

Topics

平成18年度地域づくり学生
チャレンジ奨励制度

学生による自主企画事業より

- ・夏休みこどもパソコン教室
- ・松本大学平和講演会
- ・ふれあい料理教室

学生と地域との協働事業より

- ・JAあづみ生き活き塾
- ・ひとり暮らし高齢者激励事業 他
- 障がい児者との交流活動

インフォメーション

- ～考房内外各種イベントや
- スタッフ募集のお知らせです～

地域づくり実践講座参加者
募集

つばやき

地域づくり学生チャレンジ奨励制度

松本大学地域づくり考房『ゆめ』は、本学学生の社会参加への第一歩となり、社会をより良くしていこうとするリーダーシップの芽生えとなる活動を支援しようと、昨年度から奨励制度事業を行っています。楽しみながら自らも成長し、地域も活性化し、社会貢献につながる、学生による地域づくりの活動を募集し、今年度は4団体からの応募がありました。8月9日に選考審査会を実施した結果、下記の3事業が選考され、奨励金が支給されました。

各プロジェクトの発足までの経緯、今後の展開などは考房『ゆめ』公式サイトで紹介しています。
http://www.matsumoto-u.ac.jp/matsumoto_u/yume/

松本大学平和を考える会

事業概要

学生が松本大学をフィールドに平和などを考えていく場や、情報を発信する場づくりをしていく。平和や非戦に関連した講演会を松本大学で開いたり、戦争体験者の声をまとめて、学内外に発信していく。



地域交流和太鼓プロジェクト
「松風連」

事業概要

老若男女、経験者・未経験者問わず誰でも参加できる地域交流型事業。日本の伝統文化である和太鼓を通じて、松本市を中心に地域のさまざまな活動に参画し、地域を元気にしていく。地域一般からもメンバーを募り、幅広く活動していく。



事業概要

本来捨ててしまう廃油をリサイクルして、燃料にした車を走らせ、環境負荷に配慮した生活スタイルを社会に向けて発信する。

また、化石燃料の枯渇問題の対策と、食料品用廃油の廃棄量の削減を狙う啓発活動を行っていく。

天ぷら廃油Car製作プロジェクト



ありがとう
ございました！

平成18年7月豪雨災害義援金

学生のみなさんからお寄せいただきました温かな義援金を、この度岡谷市に寄付させていただきました。この義援金は、岡谷市役所から被災者の方へ届けられます。多くのみなさんのご協力に感謝申し上げます。ご協力いただきました方々の名称および金額は下記のとおりです。

松商短期大学部1・2年生有志	18,677円
観光ホスピタリティ学科交流会実行委員会	2,006円
夏休みこどもパソコン教室スタッフ一同	8,614円
第40回梓乃森祭募金	507円
第40回梓乃森祭 信州の食文化五平餅売上金	1,418円
合計	31,222円

夏休みこども パソコン 教室

私たちは8月の1・3・5日に大学内のパソコン室で、小学生を対象とした夏休みパソコン教室を開催しました。この活動はNPO法人グループHIYOKOの方々との共同事業でしたが、企画から運営のほとんどが、学生が主体となり作られていきました。



まず1日目は、子供たちにパソコンに慣れてもらい、基本的な扱い方を覚えてもらうために、マウスを使って絵を描きました。書いた絵はプリントアウトをし、持ち帰ってもらいました。2日目は、大学内の案内をしつつ、子供たちにデジカメで写真を撮ってもらいました。デジカメはそれ自体が重く操作しにくいものでしたが、子供たちは説明を良く聞き上手に扱っていました。どの子も自由に撮っていて、とても楽しい写真が撮れていました。写真を撮った後は、学食にてお昼を食べ、子供たちと交流を深めました。3日目は、2日目に撮った写真を載せてカレンダーを作りました。皆お気に入りの一枚を選ぶのに苦労していました。この日は最終日だったので、全体を通してのアンケートをとり、その中で「とても楽しかった」「また、パソコン教室をやってほしい」などと書かれており、達成感も一押しでした。私たちはこの活動の中で、HIYOKOの皆さんや、教室に来てくれた小学生を始め、普段接する機会のない方々と出会い、貴重な体験をしました。今回培ったものをこれからに生かしていきたいです。

こんな事を
やりました

- 1回目 マウスを使ってパソコンに慣れよう！
- 2回目 松本大学で写真撮影と学食体験
- 3回目 写真を使ってカレンダーを作ろう！

（松商短期大学部1年 西村 典子さん）

今回の講演会は、平和問題を重用視している学長先生と、松代大本営の保存活動を行っている長野俊英高校の郷土研究班顧問の土屋教頭先生をお願いし行われました。初めての活動でゼロからのスタートでした。今ある繋がりで企画してみようと、立ち上げ当初から講演してもらうように依頼してあった学長先生とメンバーの寺沢君から長野俊英高校の活動も聞いており、第二次大戦の体験談や貴重な話が聞けると思い企画しました。

松本大学平和 講演会

何から何まで初めての事だらけで、今まで単に聴きに行っていた講演会が自分たちで企画運営してみると、こんなに労力を使うという事を知りました。失敗はPR不足だとか多々ありますが、一番は周りのメンバーを巻き込めなかった事です。夏休み始めの頃から講演会に向けて会議を重ねてきたのですが、夏休みと言う事もあってメンバー全員が集まる日が無く、居るメンバーだけで話を進めてしまい、情報の共有ができなかったことです。メンバーを当初から巻き込んでいれば...と心残りな部分もあります。この経験を生かして次回はみんなで一丸となって物事にあたれば良いと思います。

チラシを置いていただいた各団体、講演を快く引き受けてくださった皆様、講演会に足を運んでくださった皆様、支えてくださった方々、初めての講演会でいたらない点もありましたが本当にありがとうございました。

（総合経営学部観光ホスピタリティ学科1年 下澤 裕一さん）

ふれあい料理 教室

私たちは「地域社会」の授業を通して、低学年の小学生を対象とした「ふれあい料理教室」を企画しました。ゼロからのスタートで、大変なことが数多くありました。誰を対象にするのか、いつやるのか、何を作るのかから始まり、チラシ作り、会場の手配、材料の買い出しなどすべて自分たちで考え、準備しました。全部で3回の活動をしましたが、全てうまくいったわけではありません。どんなにしっかり準備していても困ったことは沢山できました。材料が足りない、連絡がしっかりいきわたっていない、ちょっとしたケガをした子が出たこと...。でも、どんなハプニングがあっても仲間同士協力し、カバーしあい、なんとか解決できました。



こんな事を
やりました

子供達とふれあうことで新しい発見もたくさんありました。まだこんな事はできないだろうと思うことも意外とこなせたり、子供達同士で順番を決めて仲良くやるなど、小さいながらきちんと考え行動していることを学ばされました。そして、何より終わった時に子供達が「すごく楽しかった」「またやりたい」と言ってくれたのがすごくうれしく、この活動をやってよかったと心から思いました。

半年にもおよぶ長い間この活動をやり通せたのは6人の仲間がいたからこそできたものだと思います。「ふれあい料理教室」を通じて改めて地域の方々とのふれあう大切さを知りました。この活動で学んだことを忘れず、これからの生活に活かせたらいいなと思いました。

（松商短期大学部1年 今溝 佑梨耶さん）

- 1回目 新村公民館で料理教室
・サンドウィッチ
・ハッピーエンディング
・フルーツポンチ
- 2回目 松本大学でふれあい
・ドッチボール、おにごっこ 他
・学食体験
- 3回目 新村公民館で料理教室
・チキンカレー
・フルーツ

～ 生き活き塾生の声 ～

9月19日、松本大学に於いて「JAあづみとの共催で「生き活き塾」が開催されました。塾生約60名、学生6名が参加し、午前中は中野学長の講演と実践活動報告（シンポジウム）、午後は塾生が地域の活動に一步踏み出すためのきっかけづくりのワークショップをグループに分かれて行いました。

今回、松本大学に於いて「幸せな地域づくりのための人づくり」について学習させていただきました。中野学長の「幸せな地域づくりのために役立つ社会をつくるためにある大学」というお言葉、そして「卒業生の就職先がいかに明るく相手に喜ばれているか」のお話、この大学で学ぶ学生が、そして父母が安心して希望に満ちているだろうと想像できました。塾生の中には地域に大学があることを知らなかった人もいましたが、実際に大学に来てみて学生と触れ合い、様子がよくわかったようです。ワークショップに参加した学生達も、みな穏やかで優しくかったです。福島先生の講演では、その目指すものが「JAあづみ生き活き塾およびネットワークあんしんと全く」といってよい程共通しており、よく理解できました。

松本大学で得たものは、今までの生き方を認めて、この先の生き方に活力を与えていただけのものでした。微力ですが、ギブアンドギブ、充実感とよろこびを持って生き活きと暮らしていきたいと思えます。

(安曇野市 宮島 宏枝さん)



JAあづみ
生き活き塾



～ ワークショップに参加した学生の声 ～

自分が知らない地域の方と話をしたが、出てきたことは「交通の便・病院が遠い」などという内容で、自分の地域と問題点は変わらないなと思った。

地域の方は生き生きと、わきあいあい話し合いながら楽しそうに作業を進めていた。また、まとめる時にテーマ名を決めたり「同じようなことが書いてあるが、多少言い回しが違うのではないか」というところで、みんなが悩み、考え、話し合っていた。

社会活動の講義で、学生同士で同じ事を行った時には出てこなかった「近隣同士が挨拶を交わさなくなった」という意見がもっとも印象に残っています。例えば「回覧板をまわす時に、昔は次の家の人と立ち話をする楽しみがあったのに、今は郵便受けに入れてくるだけで声も掛けないので寂しい」というような事でした。具体的な地域の問題点を聞き、私たちが見落としている事はたくさんあるなあ、と思った。

(松商短期大学部1年 有賀 ほなみさん)

- ワークショップで出た意見
良い所
- ・自給自足の生活ができる
 - ・自然豊か。水と空気がおいしい
 - ・災害が少ない・温泉が多い
 - ・昔からの伝統行事がある etc
- こうだったらいいな(悪い所)
- ・外灯が少ない
 - ・交通の便が悪い
 - ・近隣・世代の交流がない etc

2006
新村
音楽祭

2006 新村音楽祭が、7月22日松本大学野外ステージで行われました。ステージには、地域交流和太鼓プロジェクト「松風連」が梓川十八会との共演による「まつりばやし」を、また、考房『ゆめ』CD制作プロジェクトがきっかけとなってつくられた第2コムハウスとよちゃんバンドの共演による施設テーマソング「希望の鐘」、その他吹奏楽部や軽音楽部が参加し、司会進行は放送部が担当しました。また、模擬店には地域交流サークルによるゲームや大学1年生有志によるジュース販売が行われ、積極的に地域住民とのふれあいを楽しみました。各グループの代表が実行委員となり、企画段階から参画。音楽を通して、住民同士また大学と地域住民とのつながりが一層深められました。



ひとり暮らし 高齢者激励事業 いきいき交流会



企画者インタビュー

私はこれまでさまざまなボランティア活動をしてきましたが、自分で企画し、実行するというのは初めての経験で不安な気持ちからのスタートでした。企画を立てるうえで常に頭に置いていたのは目的を持つということです。ひとり暮らしの高齢者を対象としていたので、体や頭を使うことの大切さや、皆で協力し一つのことをやり遂げる喜びを感じてもらえるレクリエーションを考えました。そして、何よりも交流を通して地域の方々の仲を深めてもらうことを最大の目的とし企画、実行へと至りました。

10月5日・6日・11日・12日の4日間、毎回100人を超える高齢者の参加でしたので、全員が同じ様に見たり、聞いたりすることが難しいという問題がありました。しかし、四日間やっていく中で、少しでも同じ環境が造れるよう改善していきました。また、企画していくうえでスタッフの方々とのコミュニケーション不足もあったので、どんな些細なことでも連絡を取りあうことが大切だったと反省がありました。高齢者と関わり、参加者の方々の笑顔を見ることができ、また、「ありがとう。楽しかった。」という言葉ももらえたことが一番の喜びでした。多分私自信が逆に元気をもらっていたように感じ、福祉という仕事の素晴らしさを改めて感じることができました。ボランティアを通して、相手の立場に立って考えることの大切さを学び、福祉を学ぶものとして私を成長させてくれました。だからこそ、私はこれからもたくさんのボランティア活動に参加していきたいと思います。

最後になりますが、この企画が成功に終わったのは一緒に企画を練ってくれた先生や市役所の方々、そして当日参加してくれた学生スタッフの皆さんのおかげだと、とても感謝しています。

(総合経営学部観光ホスピタリティ学科3年 永井 明日香さん)

塩尻市がひとり暮らしのお年寄りを対象に行っている「いきいき交流会」が10月に開催されました。若い感覚でお年寄りを楽しませて欲しいとの塩尻市から依頼を受け、社会福祉士を目指す学生達がレクリエーションを企画し、参加者達と一緒に体操やクイズ、折り紙工作を楽しみました。

参加者インタビュー

折り紙をしているうちに、折り方といっしょに昔のこともいろいろ思い出したんだ、小さい頃のことや友達と遊んだこととかをね。で、知らず知らずのうちにこちら童心に返っていて、ちょうど学生さんと友達というか仲間みたいな感覚になっていたんだよ。

学生さんは無邪気というか正直というか駆け引きがないから、こちら構えることなく素直な気持ちで付き合えた。だから、話しもできたし笑うこともできたんだよね。「その場しのぎ」とか「うわべだけの対応」に対しては、高齢者は特に敏感だと思うよ。その点、今回はそういうことがなかった。若い人が我々とともに楽しみ、年代を越えて人と人の付き合いができたことが嬉しかったよね。年に一度と言わず、学生さんの都合がつかならもっとこういう機会をつくってほしいよね。楽しい時間を過ごさせてくれたり、張り合いという生きがいを与えてくれる、こういうのが本当の高齢者に対する「敬老」というんじゃないのかな。

(インタビューのお相手 塩尻市 杉山さん)



完成!



選挙 啓発 活動

県選挙管理委員から「大学と連携し、8月6日に行われた県知事選をきっかけに、低迷している若年層の投票率を上げたい」との相談を受け、関係教員や松本市選挙管理委員会との数回にわたる検討会で、大学生への啓発活動のための取り組みを企画しました。今後の選挙にも関心をもってもらうため、啓発活動のモデルケースとして、街頭啓発や期日前投票の立会人、開票事務等の活動を通して選挙の仕組みを学生に知ってもらうとともに、同世代へのPR効果も期待しています。希望者を募り延べ8人が参加し、貴重な体験をしました。

また、9月9・10日には山梨県において青年リーダー養成研修が行われ、本学からは、2名の学生が参加し、他地域の若者との交流を通して、明るい選挙に関する知識を深めました。

こぶしの会Dayキャンプに参加して

私は8月26日に自閉症児とのDayキャンプに参加しました。事前に自閉症について学び、当日やる事についての打ち合わせをしました。

当日は、塩尻市の小坂田公園で最初に子ども達との顔合わせから始まり、自己紹介をやり、次にゴーカートやアスレチック、プール遊びをしました。

私のグループは自閉症児の兄弟・姉妹だったので、元気があり、あちこち走り回されて疲れましたが、子どもと一緒に遊ぶことなどあまりなかったので私自身もすごく楽しかったし、子ども達も笑顔ですごく楽しそうにしていたので、とても良かったです。

また、ちょっとした問題とかもあったけれど、他のボランティアの方とも協力して、うまくその場で話し合って解決することができました。

私はこの1日で子ども達とも仲良くなり、楽しい時間を過ごすことができました。またこういう機会があれば、是非参加したいです。

(総合経営学部観光ホスピタリティ学科
3年 藤沢 冬生さん)

盲人卓球大会審判養成に参加して

最初はほとんど興味本位の参加でした。視覚障がい者が行う卓球とはどんなものなのか、という意識だけで第一回目の活動へと赴きました。

具体的にどういったスポーツであるかを紹介するには紙面が足りないので割愛しますが、そこで知り合った障がい者の方や視覚障がい者協会の方の真剣さ、熱意に触れ、約三ヶ月に渡る活動が始まりました。

私は審判員という形でこの活動に参加しましたが、そこで感じたのは視覚障がいの方が真剣にスポーツを楽しんでいるということでした。そういった感情に触れた時、健常者と何も変わらないんだということ強く感じました。

サウンドテーブルテニス(=盲人卓球)の審判員として、最低限の知識と技術を得ることができ、長野で行われた北信越大会も大過なく終了しました。せっかく得た技能なので、機会があればこういった催しに参加していきたいと思えます。

(総合経営学部観光ホスピタリティ学科
3年 早津 仁志さん)

障がい 児者との 交流活動

山形小学校自律学級とのふれあい

活動のきっかけは、履修していた授業が必ず実習しなければならぬからという理由でした。初めて自律学級の子供達と交流するというので、何をしたらいいのか、うまく関わっていけるだろうかという不安がありました。

ところが、行ってみるとそんな気持ちも不安も子ども達が吹き飛ばしてくれました。子ども達が笑顔で話しかけてくれたり、ネームプレートを見て名前を呼んでくれたりして嬉しい気持ちでいっぱいになりました。何回かボランティアに行っていますが、毎回思うことは自律学級の子供達は純粋で、笑顔がとてもキラキラしているなと思います。大学生になるにつれて忘れてしまったことや思いを自律学級の子供達は持っている、思い出させてくれます。

活動を通じて、ここでは書ききれないくらいたくさんのお話を聞き、考え、学びました。活動を始めた頃とは気持ちが全く違い、今ではボランティアに行きたくてしょうがないです。これからも、たくさんのお話を学んでいきたいと思えます。

(松商短期大学部1年 柳澤 紀葉さん)

キッズファーストに参加して

障がいや難病を持つ子どもの家族とボランティアによるキャンプに参加しました。7月29日～31日に実施され、私は仲間の2人とともに30日の企画をしました。

企画内容は、半日間の安曇野観光でした。企画段階で最初に考えたことは、体験型ツアーということです。たとえ障がいがあってもチャレンジする、その環境を整えることを目標に企画しました。そこで考えたのが、ゴムボートで川下りをするラフティングでした。いくつかの業者には断られましたが、私たちの趣旨にご理解いただいた業者と無事実施することができました。参加者も最初は驚いた表情を浮かべていましたが、少しずつ笑顔になり、それを見た家族も笑顔となり、私たちも笑顔となりました。それは笑顔の相乗効果といった感じです。

私も参加者も、チャレンジしたことにより得たものは笑顔であり、楽しさでした。この経験で学んだことを次へとつなげていきたいと思えます。

(総合経営学部観光ホスピタリティ学科
3年 今村 貴保さん)

農畜産物加工・食材開発ゼミに参加して

9月4日大町市平公民館において、地元の旬の食材を掘り起こし、本物の味を子どもたちに伝えることを目的とした食材開発ゼミが開催されました。6名の学生が参加し、「売れる商品づくり」をテーマに、地域の方と手づくり商品の試食・評価のワークショップを行いました。

「大町の新しい目玉商品を開発しよう」と地元の方々が自家製の食品を持ち寄り、試食し、みんなで検討しました。それぞれ独創的であったり、あるいは王道的であったりと、多種多様な食品が並べられました。

持ち寄られた食品が多かったため、「ジャム」「漬物」「惣菜」の3つの班に分かれて検討を行い、僕は惣菜班に回りました。既に商品化一步手前の完成度の高い物もあったのですが、個人的に興味をひかれたのは、むしろ思い入れのある食品について熱心な説明を行い、また他人の持ち寄った食品の問題点についても真剣に話し合う、大町の人達のひたむきな姿勢です。いずれも、味・食感・値段など、それぞれ問題点を抱えていましたが、互いにそれを指摘しあい、より良い物にしていこうという取り組み方には非常に真摯なものを感じました。

(総合経営学部観光ホスピタリティ学科1年 松本 健太さん)

INFORMATION

公開学習会参加者募集「災害に強いまちづくり

～誰にだって、できることは必ずある！～

内容 「災害ではどんなことが困るのか」「そのとき自分ができることは何か」「今からできることは！」といったことを考え、住民ひとりひとりの実践が『災害に強いまちづくり』につながることを期待する。

対象 防災・まちづくりに関心のある学生

日時 12月10日(日)13:00～16:40

場所 松本大学5号館

波田町自然エネルギーコンテスト実行委員募集

内容 平成19年夏季開催予定「波田町自然エネルギーコンテスト」実行委員の一員として、自然環境に恵まれた波田町から発信するイベント作りと自然環境にやさしいエネルギー利用を目指した波田町の環境づくりにご協力いただく。

対象 楽しいイベントづくりに関心のある方、エネルギー・環境の分野に興味のある方であればどなたでも

日時 平成18年12月～平成19年9月頃。来年夏季開催まで5～6回予定

場所 波田町役場庁舎内(実行委員会)

扇子田運動公園内(コンテスト開催会場)

お年寄りと一緒に囲碁・将棋をしてみよう!

内容 介護老人保健施設に入所されているお年寄りの方と話しをしたり、囲碁・将棋を通してコミュニケーションを図る。

対象 明るく元気で、囲碁・将棋のできる方

日時 10時～12時、13時～15時、16時～18時の間の空いている時間

場所 山望苑(大学から徒歩5分)

2007年3月「耳の日記念文化祭」へ向けて

実行委員募集

内容 2007年3月3日(土)の「耳の日記念文化祭」へ向けて企画、運営。

対象 手話ができる学生・関心のある学生

日時)3月まで月1回程度、実行委員会を開催

場所 中央公民館(Mウイング)

第2回学生ボランティア研究集会「たまり場」参加者募集

内容 学生・若者を主体とした地域ボランティアサークル活動経験者たちが集まり、学びや交流を通して考えや経験を共有していく。また、地域を越えた連携や学生ボランティアネットワークを構築して、学生ボランティア団体の運営を支援するとともに、地域のさらなるコラボレーションを目指す。

対象 ボランティア活動をしている学生、関心のある学生

日時 12月10日(日)9:30～16:00

場所 長野大学

参加費 学生1,000円(昼食代を含む)

手話通訳士試験サポーター募集

内容 試験監督および試験に関わる業務。

対象 障害者に理解があり、できればこれから手話をやってみたい人

日時 12月2日(土)8:30～16:00

場所 松本市中央公民館(Mウイング)

備考 交通費、昼食代、謝礼支給

新村・和田公民館共催パソコン教室(年賀状)

サポートスタッフ募集

内容 パソコン初心者に、パソコンに触れ(実習)ながら、年賀状作成までの技術を習得していただくパソコン教室のアシスタントを募集。事前学習あり。

対象 パソコン(ワード)で年賀状を作成できる方

日時 12月5日(火)、6日(水)、8日(金)、12日(火)の4日間。午後7時～9時

場所 まつもと情報創造館4階研修室

備考 交通費支給、お弁当付き

安曇野市福祉のまちづくり検討会参加者募集

内容 安曇野市の5地域ごとに部会を設定し、「子ども」、「高齢者」、「障害者」、「まちづくり全般」について話し合う。

対象 安曇野市在住で福祉・まちづくりに関心のある学生

日時 12月～19年7月まで(月1回程度)

場所 穂高会館講堂他、地域の施設

気づきから行動へ

まちの縁側づくり実践塾

“かつてはまちにも田舎にも縁側というものがございました。お若い方にはなじみがなくとも、ある世代以上にはあそこに行けばなにか見えこと起こるかも、と、人の気持ちを沸かしたせ、人と人のあいだに心地よい風が吹き渡る、そういうやわらかい場所、それが縁側でございました。”自分の身のまわりで縁側づくりをしてみませんか。

第一弾

地域を知る
～探検！発見！
ほっとけん！～
12月24日(日)
10:30～16:00
松本大学521教室

*日程 10:15 受付
10:30～12:00 《げんとーく》
幻燈十話
12:00～13:00 昼食
13:00～16:00 ワークショップ
*参加費 500円(昼食は実費、大学生以下無料)
*申込み 12月18日(月)までに考房『ゆめ』へ
メール、FAX等でお申し込みください。

語り部：まち探検指南役



延藤安弘
(えんどう やすひろ)
先生

NPO法人まちの縁側育み隊
代表理事



信州の食文化ツアーに参加して



夏休みに計4回、信州の食文化を学ぶ機会を与えてもらって、実際に佐久の鯉、蓼科では凍み大根、王滝村ではこま豆腐他、飯山では笹ずしなど各地域の伝統料理を教えてください、先人の知恵や工夫におどろきを感じました。

また、ご指導いただいた地域の皆さんの温かい人柄や、地域を愛する心がすごく伝わってきて、私自身も「どうにか伝統食をこれからも守っていったらなあ。」という気持ちが強く残りました。

今回の経験はすごく貴重なものだと思うし、料理の作り方でなくて、人として一回り大きな心や気持ちを得られたような気がしました。全部の実習がどれも楽しく印象的で、また、一緒に学習に参加したメンバーとも仲良くなれ、先生ともいっぱいお話しすることができて、楽しい思い出でいっぱいです みんな、ありがとう。

なかなか出来る体験じゃないし「こんな夏休みもいいかな～」と思いました。
(松商短期大学部1年 木下 尚子さん)



凍み大根



こま豆腐



地域の方と



笹ずし

考房『ゆめ』に
パネルが展示
してあります
ので見に来て
下さい！

つばやき

この3月に大学を卒業して、4月から大学の近くの第2コムハウスデイサービスの職員になり、14日の午前中に利用者さんと遊びに行きました。時間が短くあまり見ることができませんでしたが、利用者さん達も毎年楽しみにしていて特に新村のおばちゃん達の喫茶で去年食べた漬物が食べたいといい、お茶を飲み、みんな美味しいと言ってくれました。毎年楽しみにしてくれているんだなあ、と思いました。

卒業して初の学祭で楽しみでもあり、不安があり準備に関わらせてもらいましたが、後輩達の成長に驚かされました。また、地域の人たちに支えてもらいながら成功しているのだと実感させられました。

(総合経営学部18年度卒業生 古田 秀和)

インフォメーションへの問い合わせ“ゆめ通信”へのご意見・質問など、すべて下記へお願い致します。



松本大学 地域づくり考房『ゆめ』

〒390-1295 長野県松本市新村 2095-1

Tel: 0263-48-7213(直通) 0263-48-7200(代表)

Fax: 0263-48-7216

E-mail: community@matsu.ac.jp

URL: http://www.matsumoto-u.ac.jp/matsumoto_u/yume/